



# 子育て情報 11月号

平成 29 年 11 月  
椋山女学園大学附属幼稚園

## 名前のお話

園長 横尾 尚子

今年もそろそろ卒園証書の準備が始まりました。園長 1 年目に筆書きした卒園証書の原本の、まず卒園式の日時だけを書き直して印刷所へ。その間、年長クラス担任が、お子さんのお名前の表記方法を確認します。手元に届くのが 12 月中旬。墨をすりつつ、一人ずつ、卒園証書にお名前、生年月日、卒園児番号を書き入れるのが、1 月の楽しみです。でも書きながら、子ども達と過ごした 3 年間のさまざまな出来事が思い出されては、筆が止まってしまいます。それに加えて、素敵なお名前の由来など考え始めると、もう頭の中はいっぱいいっぱい。証書を書いていることさえ忘れてしまいます。今日は、そんな名前についてのお話です。

子どもの名前に用いる漢字選びで、親が重要視するポイントは、「音」「イメージ」「画数(開運)」「漢字」の 4 点だそうです。近年は、「音」を先に決めて漢字を当てはめる名づけ方法が流行のようですが、名前の漢字選びには、多かれ少なかれ時代の影響が見られ、変遷してきました。

明治安田生命の「生まれ年別名前調査」によれば、大正時代の男児名で人気の漢字は、元号改正の影響を受けて『正』の字。大正 1 年は「正一」、大正 2 年は「正二」、大正 3 年は「正三」がそれぞれ第 1 位で、『清』も 15 年間で 9 回 1 位の人気でした。昭和も元号改正当初は、『昭』の漢字が入った名前が人気でしたが、1937 年(昭和 12 年)の日中戦争以降の戦中は、『勇』『勝』が人気を二分し、『勲』や『功』もベスト 10 入り。1945 年(昭和 20 年)に終戦を迎えると、『博』『茂』が 1 位・2 位に。昭和 30 年代～40 年代は『誠』が人気で、昭和 50 年代には『大輔』ブーム(8 年連続 1 位)が起きました。昭和 60 年代から平成一桁までは、『翔太』『拓也』『健太』が人気で、1989 年(平成 1 年)～1995 年(平成 7 年)の 7 年連続でベスト 3 を占めました。この頃から、『翔』『樹』『海』『翼』など大自然を連想する漢字が目立つようになったそうです。平成 10 年代、人気は『大輝』から『大翔』へ。平成 20 年代以降は『大翔』『蓮』『悠真』に、『陽』『楓』が上昇中。

女兒名では、大正時代は『千代』『文子』。昭和初期から 20 年代までは、元号の影響と平和への祈りでしょうか、『和子』が 26 年間で 23 回 1 位。『幸子』も常にベスト 3 入りしていました。昭和 30 年代は『恵子』と「久美子」「由美子」に使われる『美』の漢字が人気で、皇后美智子さまのご成婚で、『美智子』が 4 位に入りました。昭和 40 年代から女兒の名前は多様化、「子」離れが始まりました。昭和 50 年代から 60 年代は、『愛』が人気で、「子」離れは完全に定着したそうです。平成一桁は、『美咲』が 6 年連続 1 位。平成 10 年代の人気は『さくら』から『陽菜』へ。平成 20 年代以降も『陽菜』人気は継続。『結』を使った名前の人気が高まってきているのは、人と人との結びつきの重要性が再認識されているためでしょうか。

「こんな人(性格)になってほしい」「こんな人生を歩んでほしい」と、いつの時代も、親は子どもの名前に夢と希望を託してきました。お子さんの名前はとても大切です。でも、次の一文を読んでみてください。

◆大切なのは、名前じゃないよ。つけた名前をどれだけたくさん呼ぶかさ。 原 正和

名前は自分で決めたいと言う女の子に父親がある男の話をして聞かせる。彼は念願の子どもを授かって、さてどんな名前をつけるか悩みに悩む。(中略)とうとう名前を探す旅に出た父親は、遭難時、救ってくれた男にこう諭される。童話作家の『お父さんとお話のなかへ』から。(出典：鷲田清一「折々のことば」)

創立 75 周年記念講演の中で、講師の山崎晃先生は、子育てで最も大切にしたいのは子どもを「愛すること」だ、と話されました。心を込めて何度も何度もお子さんの名前を呼ぶこと、それは「愛」に他なりません。